

福島第一原子力発電所の滞留水の水位・移送、処理の状況について（4月5日18時現在）

		1号機	2号機	3号機	4号機
滞留水の水位 (4月5日16時時点)	トレンチ立坑水位	水位低下に伴い、測定できず (O.P.+ 850 mm未満)	O.P.+ 3,251 mm (4月5日7時から5 mm上昇)	O.P.+ 3,138 mm (4月5日7時から2 mm下降)	
	タービン建屋水位	O.P.+ 3,327 mm (4月5日7時から6 mm上昇)	O.P.+ 3,183 mm (4月5日7時から4 mm上昇)	O.P.+ 3,093 mm (4月5日7時から2 mm上昇)	O.P.+ 3,088 mm (4月5日7時から3 mm上昇)
	原子炉建屋水位	O.P.+ 4,419 mm (4月5日7時から9 mm下降)	O.P.+ 3,383 mm (4月5日7時から6 mm上昇)	O.P.+ 3,170 mm (4月5日7時から変化なし)	O.P.+ 3,107 mm (4月5日7時から4 mm下降)
	集中廃棄物処理施設 における各建屋の水位	プロセス主建屋 高温焼却炉建屋 サイトバンカ建屋	O.P.+ 3,829 mm (初期値からの増加量5,046 mm, 4月5日7時から70 mm下降) O.P.+ 2,729 mm (初期値からの増加量3,455 mm, 4月5日7時から305 mm上昇) O.P.+ 4,458 mm (床面からの水位662 mm, 4月5日7時から10 mm上昇)		
滞留水の移送状況	1号機	2号機	3号機	4号機	
		2号機タービン建屋地下 集中廃棄物処理施設（高温焼 却炉建屋） 移送実施中 (3月20日10時14分～)	3号機タービン建屋地下 集中廃棄物処理施設（高温焼 却炉建屋） 移送実施 (4月3日10時08分～ 4月5日14時54分)		
	5・6号機				
	6号機タービン建屋地下 仮設タンク	移送実施	(4月5日10時00分～4月5日16時00分)		
水処理設備の運転状況	セシウム吸着装置 : 3月28日14時32分～ 運転中 第二セシウム吸着装置（サリー）* : 4月5日1時05分～ 停止中 淡水化装置（逆浸透膜）* : 水バランスをみて断続運転 淡水化装置（蒸発濃縮） : 水バランスをみて断続運転				
その他特記事項	<p>* 4月5日午前1時5分頃、淡水化装置（逆浸透膜式）から濃縮水を濃縮水貯槽に送る流量が上昇したことから、水の漏えいの可能性があるため、午前1時10分頃、同装置を手動にて停止。水の漏えいを防ぐために、午前1時45分頃、淡水化装置から濃縮水を濃縮水貯槽に送る配管（耐圧ホース）の前後にある弁を閉止。当社社員が現場を確認したところ、午前1時50分頃、同配管からの水漏れが確認されたが、淡水化装置の停止および弁を閉めたことにより、午前2時20分頃、漏えいが停止していることを確認。また、耐圧ホース保温材より漏えいしていたことを確認したことから、保温材を外したところ、接続フランジ部から耐圧ホースが外れていることを確認。約12m3の濃縮水が、一般排水用の排水溝を経由して、海へ流出している可能性があることから、漏れた水、排水溝内の水および1～4号機側放水口から南側に約300m離れた一般排水用の排水溝出口付近の海水について、サンプリングを実施。その結果、漏れた水、排水溝内の水からガンマ線核種が検出されたものの、排水溝出口付近の海水は検出限界未満であることを確認。今後、サンプリングした水的全ベータ放射能の分析を行う予定。なお、淡水化装置（逆浸透膜式および蒸発濃縮装置）は運転を停止しているが、淡水化処理した水は十分にあることから、原子炉注水への影響はない。</p> <p>* 4月5日午前1時5分、第二セシウム吸着装置において、警報が発生し同装置が自動停止。現場を確認した結果、漏えいがないことを確認。</p>				

水位についてはデータとして速やかに提供させていただく観点から、参考値としてお知らせさせていただいております。